

抑うつ気分

監修／島根県斐川中央クリニック 院長 下手 公一

症状と所見

処方

比較的体力がある（実証）

驚きやすい、強い胸脇苦満
臍上悸



柴胡加竜骨牡蛎湯

体力は中程度（中間証）

強い不安感
咽喉頭異常感

胸脇苦満



半夏厚朴湯

柴朴湯

多愁訴、イライラ、怒りっぽい

加味逍遙散

強い抑うつ

抑肝散

体力がない（虚証）

易疲労感、不眠
貧血、イライラ

加味帰脾湯

神経過敏、眼精疲労
夢精、臍上悸

桂枝加竜骨牡蛎湯

寝汗、口渴
軽い胸脇苦満、臍上悸



柴胡桂枝乾姜湯

強い抑うつ

抑肝散加陳皮半夏



1 point ワンポイント・アドバイス

西洋薬による抑うつ気分の治療では、中枢神経系に働きかける三環系抗うつ薬やSSRI等による治療が中心となりますが、漢方治療では、「心身一如」という考えの下、様々な身体症状にも大いに注目します。急性のうつ症状には西洋薬、慢性的なうつ状態には漢方薬、という使い分けは一つの目安ですが、併用が望ましい症例も少なくありません。なお、漢方において「鬱」は基本概念でもあり、生命力としての「気」が、木々がこもるようにふさがっている病態を指します。